

巻頭言

畜産共進会を顧みて

惣 津 律 士

今年の畜産共進会は和牛の部が10月12日から4日間新見市で、乳牛の部が酪農文化祭の一環行事として10月20日から3日間津山市で開催された。出品頭数は和牛が118頭、乳牛はジャージー牛20頭を含めて67頭に達し、審査顧問に和牛では農林省中国農試畜産部の熊崎博士、乳牛では日本ホルスタイン登録協会の榊田博士と岡山大学農学部の小松教授を御依頼した。

本県和牛の改良は優良種雄牛の適切なる交配と飼育技術によって、ここ3、4年急速に進み全般的にレベルが著るしく向上して来ている事は昨年の全国和牛の出品成績からも伺われることであって誠に喜ばしい事である。特に今回の共進会を通じて参観者がひとしく感じた事は真庭郡の異常な躍進振りである。これは勿論指導組織の充実、優良牛の保留とその積極的の導入措置が実を結んでなるのであるが、又家畜飼育上必要な諸条件の整備が健実に運んでいる点も見逃し得ない。世人は乳牛と和牛は両立しないと言うが、良い牛を造る条件には変りはない。良い和牛の生産地は良い乳牛を生産するものである。和牛資源が漸次下降を示している現在、私達は何んとしても諸条件を先ず整備して、その飼育慣行の改善はもとより経済的多頭飼育経営へ進まなくてはならない。

乳牛の部に於て未經産牛が美作地域に於て優位性を示したことは注目に価する。そして備中南部が案外

不振であった事は遺憾であった。こう言った事は前述の和牛の場合に通ずるものがあり、酪農関係者はこの際大いに反省して戴きたい。

酪農文化祭では酪農試験場の開放と展示、更に体験発表を行って、皆さん方に本県酪農の姿を見て戴くと共に将来への参考に供して戴いたのだが、期間が短かったためにゆっくり御勉強になれなかった方が多かつたことと思ひ御詫びを申し上げる次第である。

本年は種々の関係から総合共進会が実施出来なかつた。私は畜産共進会は1ヶ所で総合でやるべきものだと考えている。

そして私は次の事を提唱したいのである。それは本年あたり岡山市で農林業全般に亘つての共進会を開催して戴きたい事である。もうその時期が立派に到来している。そして生産から経営、流通全般に亘って、その機会に岡山県の姿をはっきりと認識すると共に明日の輝かしい農業の建設に資する糧としたいのである。